

令和6年度



しもよねだ

第13号

令和7年2月28日(金)

生まれる前の自分のこと、生まれてすぐの自分のこと

～6年生「いのちの授業」を通して～

校長 板津 英文

卒業式までのカウントダウンがあと20日、前期始業式からのカウントアップが185日目となる2月21日。6年生のみなさんが、「いのちの授業」を受けました。埼玉県八潮市から、助産師の直井亜紀先生をお招きしました。

直井先生には、縁があって、私が以前勤めていた学校に来ていただきました。8年ぶりにお会いしましたが、当時のことを覚えていてくださって、とてもうれしい気持ちになりました。時間が経っても、つながっている人の縁。素敵だなと感じました。



6年生「いのちの授業」の様子

◎生まれる前の自分のこと

生まれる前の自分のことについて、お話を聴きました。お母さんのおなかの中で誕生した「いのち」は、最初は米粒ほどの大きさです。それが、羊水から栄養を取りながら徐々に大きくなり、手などの形がはっきりしてきます。そして、出産です。様々なドラマを経て、あなたはこの世に生まれてきました。

生まれる前の自分のことを覚えている人はいないと思いますが、こうした話を聴いて、自分もそうだったのだなと考えると、とても神秘的な気持ちになりますね。

◎生まれてすぐの自分のこと

生まれてすぐの自分のことについて、お話を聴きました。最初から小学6年生として生まれてくる人はいません。生まれて、名前を付けてもらい、多くの人から可愛がられて成長して今があります。

印象的だったのは、「人は栄養だけでは生きていけない」というお話でした。食べることは大事だけれども、過去の研究から、それだけで人は生きていけないことが証明されています。あなたが、今ここにいることが、人に愛されて育ってきた証です。そんな言葉が心に残りました。

生まれてすぐの自分のことを覚えている人はほとんどいないと思いますが、こうした話を聴いて、自分もそうだったのだなと考えると、とても温かな気持ちになりますね。